

平成27年度 家計相談支援事業従事者研修  
第1日目・2限

---

# 家計相談支援員の 基本姿勢と役割

鳥山まどか(北海道大学大学院)



# 最初のワーク(15分間)

---

ワークシートの

1(1分)

2(10分)

3~5(4分)

# 支援員に求められる基本倫理

---

## (1) 権利擁護

: 尊厳の確保、本人の主体性の確保

## (2) 中立性・公平性

## (3) 秘密保持

# 支援員に求められる基本姿勢

---

- (1) 信頼関係の構築
- (2) ニーズの的確な把握
- (3) 自己決定の支援
- (4) 家族を含めた支援 ※暴力の問題
- (5) 社会とのつながりの構築の支援
- (6) チームアプローチ
- (7) 支援のコーディネート
- (8) 社会資源の開発

## 加えて、家計相談支援員が留意・配慮すべきこと

---

- (1) 日本の家計の構造的特徴を理解する
  - (2) 「お金について話すという経験」について考える
  - (3) やりくりや借金とメンタルヘルス、暴力との関係に留意する
  - (4) チームで対応する工夫
- 

# (1) 現代日本でお金をやりくりすることの意味

---

～想像してみてください～

「このお金だけで1か月暮らしてください」と言われました。

その金額が①1万円、②5万円、③10万円、④30万円だったとき

(1) やりくりの仕方はどのように変わるでしょうか

(2) やりくりが難しいのはどの金額でしょうか

(3) 無駄遣いをしてしまったり、予想外の出費があった時にダメージが大きいのはどの金額でしょうか

## (1) 現代日本でお金をやりくりすることの意味

---

当たり前のような話だけれど...

- ・使える金額が少ないほど、やりくりが必要になる
- ・同時に、ちょっとしたやりくりの失敗が命取りになりやすい
- ・収入が恒常的に少なかったり、急激に収入が減ったりするとやりくりは難しくなる ※入りの金額や時期にばらつきがあっても難しい
- ・そうした家計は急な出費に対応するのが難しい
- ・借金の存在はやりくりを難しくする(支出のコントロールができない)

# (1) 現代日本でお金をやりくりすることの意味

---

## 日本の家計の構造的な特徴

- ・住宅、教育、医療(社会保険)等が家計支出に占める割合が非常に大きい。
- ・これらの支出は一般に自分のやりくりで節約するのが難しい
  - ＝社会的固定費 ※水光熱費や社会保険料、税も社会的固定費
- ・低所得層ほど社会的固定費の負担が大きい
- ・社会的固定費の多くは支払いの時期を裁量で調整できない
  - ⇔一方で、非正規雇用の賃金などの収入は流動性が高まっている
  - 低所得層ほど家計のやりくりが構造的に難しい(能力や知識の有無にかかわらず)のが特徴

## (2) お金について話すこと

---

～最初のワークを振り返ってみましょう～

- ・お金(家計)はとても「私事(わたくしごと)」、「プライベートなこと」

- ・一方で、日本は家計簿大国

→さまざまな家計簿(紙媒体、インターネット、家計簿アプリ)、ファイナンシャルプランナーの活躍等

## (2) お金について話すこと

---

お金の使い方、やりくりについて語られるとき

- ・「やりくり上手」「節約上手」であることが(誇らしげに)語られる  
あるいは

- ・「やりくり下手」であることが(自嘲気味に)語られる

のいずれかになりやすい。そもそも語られないことが多い。

→こうした風潮や規範の中で家計について相談することは、その人にどのようなものとして経験されるか

- ・国の制度であることと「国家による監視装置」ということとの関係

### (3) メンタルヘルスや暴力の問題

---

○メンタルヘルスとの関係：先行研究の知見（イギリスの例）

- ・貧困・低所得、借金のある中で日々のやりくりをすることは大きなストレスとなる。メンタルヘルスに悪影響を及ぼす
- ・やりくり役割を担う人（女性が多い）は、食事や医療を後回しにしてしまい、身体上の健康も損ねる
- ・メンタルヘルスの問題により、やりくりができなかったり借金をしてしまったりすることもある
- ・一方で、限られた収入の中でやりくりする経験が、その人の支えになっていることもある

### (3) メンタルヘルスや暴力の問題

---

#### ○暴力との関係

- ・「お金」は相手をコントロールする手段になり得る
- ・お金によるコントロールは、ドメスティック・バイオレンスの一つの現れ
- ・家計の問題と暴力の問題は相絡まりやすい

### (3) メンタルヘルスや暴力の問題

---

#### ○家計相談支援員の姿勢

- ・メンタルヘルスも暴力も、相談員(医者・弁護士等も)が二次被害の加害者になり得る

→家計相談支援相談員がメンタルヘルスや暴力(DVや虐待)について学ぶ機会・場が必要。

関連機関・施設等に家計相談支援員が相談したりつないだりできる関係作りも重要。

## (4) チームで対応する工夫

---

・家計相談支援事業は、これから経験が蓄積されるという段階

→うまくいかないこともたくさん。どうやったらいいかわからないこともたくさん

→他の支援員と、他機関の相談員等と考えながら進める必要

(家計相談支援員は「ひとり職場」になることもある)

★こうした研修も「他の相談支援員とつながる」重要な機会

家計相談支援事業従事者養成研修 第1日目・2限「家計相談支援員の基本姿勢と役割」  
ワークシート

1. 自分の家計（収入やお金の使い方）について、誰かと話すことはありますか。

①よく話す ②話すこともある ③必要に迫られたときに話す ④話さない ⑤考えたこともない のいずれかをそれぞれ選んでください

(1) 自分の配偶者や恋人と [ ]

(2) 自分の親やきょうだいと [ ]

(3) 自分の子どもと [ ]

(4) 親しい友人と [ ]

(5) 職場の人と [ ]

(6) 他に家計について話した経験のある相手はいますか？

[ ]

2. それでは、自分の家計について、隣の人に話してみてください。

(1) 昨日、何にいくらお金を使ったか

(2) 前月の収入と支出

3. 話している時、どのような気持ちでしたか。いくつでも選んでください。

①誇らしい ②自分の工夫を相手に教えたい ③気まずい ④恥ずかしい ⑤隠したい  
⑥混乱 ⑦特に何も感じない ⑧その他 [ ]

4. 話している時、相手はどのような様子でしたか。

①誇らしい ②自分の工夫を相手に教えたい ③気まずい ④恥ずかしい ⑤隠したい  
⑥混乱 ⑦特に何も感じない ⑧その他 [ ]

5. 自分の家計について話さなかったこと・話せなかったこと・話したくなかったことはありますか。

[ ]